

2. 関係者に対する面接調査結果

1) 調査の目的

日本における外国人の女性の人身売買での売春強要の実態、日本への入国の経緯、女性の保護などについて調べるために、女性の家 HELP の東海林氏と、在日本タイ王国大使館の領事ノッポーン・ラッチャウエート氏を対象に面接調査を行った。

2) 女性の家・HELP での調査

日本における外国人女性が売春を強要されている実態について、このような外国人女性の保護を行なっている民間保護団体の関係者から聞き取り調査を行なった。今回のインタビューに協力していただいた東海林氏は、女性の家HELP (HELP Asian Women's Shelter)、つまりシェルター、もしくは駆け込み寺といえる民間保護団体に活動している。ここには、いわゆる人のトラフィッキングの被害者であり、日本において売春を強要される外国人女性が保護を求めてくる。そこでこのような状況におかれた外国人女性の現状、日本へ入国するまでの経緯、保護の状況、必要な施策などについて聞き取り調査を行なった。

a. 調査方法

対象者 : 東海林路得子氏

日時 : 平成12年1月14日、午後1時30分より

場所 : 東京都新宿区大久保 日本キリスト教婦人矯風会内
女性の家HELP

b. 調査結果

ア. HELPの活動内容

この団体に保護を求めた女性の数は、ここ13年の間に2500人のほり、うち日本人は800人で、他は約30カ国からの外国人女性である。この団体では保護を求める女性に、宿泊、食事などの世話をするとともに、必要があれば病院での治療を受けさせたり、帰国希望者にはパスポート、チケットの世話をし、当該国の保護団体との協力による自立支援を行なっている。

イ. 外国人女性の日本における状況

*概況

この施設に外国人女性が目だって保護を求めるようになったのは、80年代以降ということである。対象者によれば、それ以前は韓国、台湾、フィリピンと続いた日本人男性による、いわゆるセックスツアーという買春形態があったが、そのことが問題となるとともにこの形態が変わり、今度は、業者が用意した観光ビザや興行ビザなどによる外国人女性の日本入国が目立つようになった。このようにして、日本国内において安易に買春ができる機会が増やされ、同時に外国人女性の人身売買も急激に増加する結果となった。

HELPを訪れた外国人女性の国籍は、韓国、中国、フィリピン、タイ、台湾（山岳民族）などのアジアの国、コロンビア、メキシコなど中南米、さらに最近は、ルーマニア、ロシア、東欧など、発展途上国や経済的に混乱していたり不況である国々である。

外国人女性がこの施設を訪れる状況としては、1998年の場合、強制売春や、人身売買ともいべき労働条件から逃れるための約30%、ホームレスが約20%、夫（日本人）の暴力や「蒸発」によるが50%という割合になっているそうである。

* 売春の状況

売春をしている外国人女性は、日本入国の時点で売春を行なうということを知っている場合もある。しかし、ダンサー、ウエイトレスという名目で入国し、意思に反して売春を行なう場合がほとんどである。いずれにしても、彼女らは日本に来るために、何らかの形で多額の借金を抱えることになる。さらに、日本に来てから、次々に「転売」されたりなどして借金がかさんでいくこともある。このような状況で彼女らは、売春を強要されても断れず、帰国したくても帰国できないということになる。つまり、彼女らは金銭の鎖で繋がれているという状況におかれることになる。このような状況下で、ある女性は、売春を拒否したために実際に鎖に繋がれたという例もあるという。対象者によれば、このような女性の管理は最近とみに厳しくなる傾向にあり、過去にあったように、彼女らが集団で逃走するというようなのんびりしたことは困難になりつつあるという。

他方、ある者は日本人男性との婚姻のため入国することもあるが、こんな場合、その日本人男性は暴力団関係者であったり、通常の婚姻関係ではないことが多いため、夫から暴力を受けたり、夫の突然の蒸発によって生活の基盤が失われる場合があるそうだ。実際に、夫の失踪によって、労働の機会と公共の福祉を受けにくい立場の外国人女性は、ホームレスになっ

たり、子どもが無国籍状態になったりする場合があるという。

日本の経済的不況により、「性産業界の状況」も悪化しているそうである。数年前では一晩に2～3万円以上の売上をしていたものが、現在では「短く安く」という方向に変わり、例えば10分間1500円というような売られ方をされたり、アパートに閉じ込められ、例えば35～40分おきに、次々に客を送り込まれるというような状況もあるという。そして、このような悪い状況で働く女性は、特にアジア人女性に多いそうだ。このように、外国人女性で売春させられている場合は、セックスワーカーというよりは、性の奴隷ともいえるような状況で「売春」を強いられている方が多いという。

*** 健康問題**

彼女らの健康面での問題の一つは、HIVの問題である。対象者はタイ出身でHELPを訪れる女性の三分の一はHIVに感染しているという。もう一つの問題は薬物使用の問題で、対象者によれば、多くは日本人の夫を通じて使用するようになるという。また、売春を強要するために薬物を使用される場合もある。過度の薬物乱用によって精神障害を起し、自分の身元もわからなくなり、「大久保花子」という名で病院に収容された外国人女性もいたそうだ。

ロ. 入国への経緯

*** 出身国**

HELPを訪れる女性の出身国は、前述のように韓国、中国、フィリピン、タイ、台湾（山岳民族）などのアジアの国、コロンビア、メキシコなど中南米、さらにルーマニア、ロシアなどであるが、対象者によれば、最近では東欧出身の女性が増加しているそうである。

*** 入国の形態**

彼女たちは興行ビザで、あるいは日本人男性との結婚目的で入国することが多い。その中には、全く騙されて売春させられる場合もあれば、うすうす気がついている場合もあるそうだ。以前は騙されて日本に来る例が多かったが、近年は売春もあるということを暗に了解していることが多くなっているという。売春ということを知りつつ日本に来る理由は、主に経済的理由であり、対象者の知る例では、「寒さの中でりんご一個食べる生活より日本で売春した方が良い」というロシア人女性がいたそうである。

* 勧誘の仕方

対象者によれば、外国人女性の出身国によって日本での滞在地に違いがあり、例えば、タイは大阪、台湾は茨城県石岡、コロンビアは各地温泉地といった傾向があるそうである。このことから、特定の地域と密着したブローカーが関与していると推定できよう。このようなブローカーには日本人だけでなく、外国人もおり、日本人の場合は「やくざ」が関わっている場合が多いという。

女性が自国で勧誘される手口はいろいろあるそうだ。対象者は、それらの手口の代表的なものを二つ上げた。

その一つは、全く騙して日本につれて来るというやり方である。タイの事例だが、タイ人の OL に日本で高給のビジネスを紹介すると偽り、渡航手数料を貸し付け、その費用を負債として日本に来てからその返済を迫り、暴力的に売春を強要された女性がいたそうである。また、同じくタイ人が絡んだ例であるが、ベトナムからの難民の少女を日本につれてきて売春させた例もある。この場合、少女は国籍問題もあり帰国しようにも帰国できない立場にあり、このような立場の弱さに付け込んで売春をさせたことになる。

もう一つは、「経済的誘惑」を使うやり方である。例えば、タイの農村で娘が日本に出稼ぎ（性産業従事）に行き帰ってきた家が立派に新築されたりすると、うすうす売春と思っても娘は親不孝とよばれたくないので勧誘を断れない立場になる。このように、売春せざるを得ないような経済格差や土地の因習が、特にタイ女性の売春問題の背景になっているようである。

勧誘の方法はともかく、日本に来た女性は渡航手数料などによる負債を抱えることになる。負債額はさまざまであろうが、前述の騙されて日本に来た OL の場合は 400 万円という。そうすると簡単には返済できないので、長期間に渡って売春せざるを得なくなる。

八. 帰国後の問題

日本から帰国した後のケアは重要である。しかし、対象者は、彼女らは、帰国後も心身に問題を抱える例が多いという。例えば、大家族のタイでは、帰国後暖かく家族に迎えられる例もあるが、村の人々から後ろ指をさされ、再び都会に出て売春をせざるを得ない場合もある。また、中国の例では少子化政策に反して未登録で出生したために、現地では無国籍人になり、帰れな

い場合や、フィリピンではカトリックの影響が強いために、未婚で出産した場合などは、「非常に不道徳」なこととなり帰国できない例などがあるようだ。対象者は、できるだけ現地の NGO 組織などと提携して、彼女らの帰国後のケアに力を入れたいと思っているが、多くの場合、帰国後のケアは充分ではないといっていた。

二. まとめ

今回のインタビューの結果をまとめると以下のようなになる。

日本において売春を行っている外国人女性は、タイ、フィリピンなどアジアの国をはじめ、東欧、アメリカ大陸など多くの国から来ており、入国の名目は興行と日本人との結婚が多い。入国には日本人および現地人のブローカーが関与し、彼女らは渡航費用など多額の負債をおわされる。そのため、彼女らは、売春を強要されたり、長期間に渡って売春を続けざるを得なくなる。拘束されて性奴隷のような売春を強要される場合もある。日本における彼女らの監視体制は、年々厳しくなっている。彼女らは HIV をはじめ精神的な問題を抱えることも少なくない。さらに、彼女らは、帰国後もこのような問題を長期に渡って抱え続けることがある。

以上のような問題の背景には経済格差、すなわち貧困地区の存在がある。さらに、それぞれの国の文化的な背景にも問題があるだろう。また、トラフィッキングを容易にするような日本および外国の組織の存在も問題である。このような多くの問題を解決することは容易なことではなさそうである。

3) 在日本タイ王国大使館での調査

日本における外国人女性売春の実態について、このような外国人女性の出身国としてその数が多い国の一つであるタイ王国の在日本タイ王国大使館領事のノッポーン・ラッチャウエート氏から聞き取り調査を行なった。調査内容は、彼女らのタイ国からの出国の背景、経緯、動機などについてである。

a. 調査方法

対象者 : ノッポーン・ラッチャウエート領事
日 時 : 平成12年2月10日、午後1時30分より
場 所 : 東京都品川区大崎 タイ王国大使館

b. 調査結果